

## **研究グループ1**：「現代中国文化の深層構造」

(代表者) 石川 禎浩 (現代中国研究センター准教授)

(分担者) 平田 昌司 (文学研究科教授)

池田 巧 (人文科学研究所准教授)

金 文京 (人文科学研究所所長、教授)

井波 陵一 (人文科学研究所教授)

壇辻 正剛 (学術情報メディアセンター教授)

高嶋 航 (文学研究科准教授)

小野寺 史郎 (現代中国研究センター助教)

狭間 直樹 (京都大学名誉教授)

本グループは、現代中国の思想・文化において、その深層構造が如何に展開しつつあるかを、人文学の視角から分析する。改革・開放政策のもと、現在の中国は、清末を第一次、五四新文化運動時期を第二次とすれば、第三次にあたる海外思潮流入の時期にある。現在における新思潮の流入は、旧来の社会主義イデオロギーとの摩擦・葛藤を経て、新たな中国文化を形成しつつあると言ってもよい。従来中国文化・中国学術についての検討は、主に「中国での中国を対象とする人文学」を俎上に乗せてきたが、かかる新思潮流入の時期にあつては、これまで見過ごされてきた「中国での中国を対象としない学術分野」（一例は、現代中国での外国文学研究、ポスト・モダン思潮の受容、現代西洋政治学の展開など）にまで目配りをした構造変化の把握が必要である。本研究グループは、かかる認識の上に立って、現代中国における「新なるもの」と「旧なるもの」の深層構造を「社会主義文化」の様相を分析することを通じて研究する。

## **研究計画 (2007-12年)**

### **1. 研究活動**

「現代中国文化の深層構造」を総合的に検討するため、当初の3年間(2007~2009年度)、「中国社会主義文化の研究」をテーマとする共同研究班の研究会を隔週1回(平日開催、毎回3時間)の割合で通年開催する。冷戦体制の終結以後、いわゆる“社会主義の文化”は世界中で風化しつつあるが、今日の中国には、社会主義的な文化様式やイデオロギーがなお根強く残存している。現にそれらは、一般民衆の思考様式になお影響を与え、現体制の文化政策を方向付け、さらには歴史認識を強く規定している。「中国社会主義文化の研究」共同研究班は、中国共産党による歴史編纂をはじめとして、映画、文芸、ジャーナリズム、流行などについて、多角的な分析を加え、現代中国文化の深層構造理解への第一ステップとする。

「中国社会主義文化の研究」共同研究班の終了後には、研究成果をとりまとめた報告論集を刊行するとともに、2010年度からは、この研究班で得られた成果、洗い出された問題群を総合的に研究するために、研究班員の再編成を行った後、「現代中国文化の深層構造」をテーマとする共同研究班の研究会を実施する。隔週1回の研究会開催というスタイルは「中国社会主義文化の

研究」共同研究班のそれを踏襲するが、「現代中国文化の深層構造」をより多角的に検討するため、他の拠点の研究者の参加を得つつ、公開セミナーを随時開催する予定である。また、研究分担者、研究協力者をはじめとする若手の研究者に、日本の現代中国研究が背負っている課題を強く意識してもらうべく、毎年1回程度「人文学の視角から見た現代中国」を中心テーマとする一連の国際シンポジウム（あるいはワークショップ）を実施し、主に海外の研究者から見た日本の現代中国研究の問題点と今後の方向性を検討する。これと並行して、多くの機会をとらえて、研究成果を国際シンポジウム、国際学会などの場で発表する。

## 2. 資料整備、データベースの構築

人文科学研究所は、戦前より東洋学に関する文献目録の整備に務めてきた。現在も、人文科学研究所附属漢字情報研究センターの事業として、毎年『東洋学文献類目』が刊行されているだけでなく、1981年以降はその目録がオンライン上に公開されており、多くの中国研究者に利用されている。ただし、これまでの『類目』は前近代に関する研究のデータが中心で、中国近現代史、および現代中国関連のデータベースは、整備が先送りされてきたという経緯がある。本研究グループは、未完成の状態にある中国近現代史・現代中国関連のデータベース構築を、人文科学研究所附属漢字情報研究センターと協力しながら推進する。また、これと並行して、人文科学研究所の所蔵する民国期中国雑誌目次データベースを構築する。

## 3. 現地調査の実施

上記1, 2の活動を有効に進めるため、研究グループ2と共同して随時（年間1, 2回程度）海外調査を実施し、これまで我が国において収集が十分でなかった分野の人文系図書・雑誌・資料の調査・収集に務めるとともに、海外の現代中国研究者との学術交流をはかる。その際、京都大学が中国に有する研究拠点（復旦大学に置かれている京都大学上海センター）を最大限に活用する一方、これまで研究協力関係を構築してきた中国社会科学院、中共中央党史研究室、中共中央文献研究室、中央研究院（台北）、北京大学、復旦大学、中山大学（広州）、ハーバード・イェンチン研究所、ライデン大学中国学研究所、C.N.R.S（フランス）などとの資料交換、研究交流をはかる。

## 4. 若手研究者の育成

教育面においては、拠点研究員の所属する当該部局、例えば文学研究科においては現代中国の社会と文化に特化した講義・演習の実施、人間・環境学研究科においては現代中国の政治に特化した講義・演習を実施するなどの形で、次世代研究者の養成を図る。また、人文科学研究所で実施される共同研究班、ワークショップでは、PD研究者、助教などの若手に積極的な参加・報告をうながし、かれらの博士論文作成を支援する。

## 2008年度の事業計画

### 研究グループ1

#### I 今年度の目標

2007年度に研究グループ1の中核事業として発足した共同研究班「中国社会主義文化の研究」は、学内外の若手・中堅研究者の参加を得ることができた。昨年度に行われた共同研究班例会は15回を数え、しっかりとした研究組織の構築ができたと言える。今年度においては、この基礎の上に、より濃密な研究例会を定期的開催し、「現代中国文化の深層構造」を把握するための研究者同士の認識のすり合わせをすすめ、同時に必要とされる国内・海外調査、資料収集を継続する。あわせて、「“中国における翻訳概念の展開”研究会」「当代中国学術雑誌通覧会」を定期開催し、東アジアにおいて翻訳され流通してきた諸概念の展開と当代中国の学術界の動向について分析を行う。

#### II 活動内容

##### 1. 研究会活動

①「中国社会主義文化の研究」共同研究班（班長：石川禎浩）

開催時期：2008年4月～2009年3月、通年、隔週1回、平日、毎回3時間前後

開催場所：京都大学人文科学研究所セミナー室4

4月から8月にかけては、報告・討論を基本的に中国語で行う予定

②「中国における翻訳概念の展開」研究会（責任者：狭間直樹）

開催時期：2008年4月～2009年3月、通年、毎月1回、毎回3時間前後

開催場所：京都大学人文科学研究所現代中国研究センター共同研究室

③「当代中国学術雑誌通覧会」（責任者：井波陵一）

開催時期：2008年4月～2009年3月、通年、毎月1回、平日、毎回2時間前後

開催場所：京都大学人文科学研究所分館応接室

##### 2. 国際ワークショップ

①「現代中国文化の深層構造を如何にとらえるか I」

招聘者（予定）：桑兵（中国・中山大学歴史系教授）

関曉紅（中国・中山大学歴史系教授）ほか、2、3名を招聘予定

開催時期：2008年度前半

開催場所：京都大学人文科学研究所

##### 3. 海外調査

① 中国からの新移民社会における言語構造の動態変化に関する現地調査、7月

調査者：壇辻正剛

調査場所：カナダ（バンクーバー、トロント）

② 中国における現代中国文化関連史跡・資料の調査

調査者：石川禎浩、小野寺史郎、池田 巧

調査場所：上海、雲南、四川

③ 台湾における現代中国文化関連施設・資料の調査

調査者：狭間直樹、井波陵一、平田昌司

調査場所：台北、高雄

4. 資料収集

① 国内諸機関、各拠点の所蔵する定期刊行物の調査・収集

② 中国社会主義文化関連中国書籍の収集

5. データベース作成

「民国時期中文雑誌目次データベース」の構築

「中国近現代史・現代中国論文データベース」の構築

「中国近現代人物別称データベース」の構築着手